OMIYA MAIL NEWS
JR East Transport Service Workers Union
JR東日本輸送サービス労働組合
JTSU-E OMIYA 大宮地方本部
2024.07.31
No. 002
HOMEPAGE TWITTER

JR 東日本輸送サービス労働組合 大宮地方本部

第５回定期大会開催！

大会宣言を満場一致で採択！

大会宣言（~~案~~）

本日、JR東日本輸送サービス労働組合大宮地本は、市民会館おおみや第8集会室において「第5回定期大会」を開催し、輸送サービス労組運動への「共感」を基に『日常の職場活動』を通じて働く者が主役の職場と仕事、地域に愛される公共交通輸送のあるべき姿を「共創」していくことを確認した。

脱退パワハラ訴訟は東京高裁で判決が確定した。会社による組織的な不当労働行為は認められなかったものの、第一審判決で認められた3点については堅持された。4名の仲間と共にたたかいをつくり出し、あったことをなかったことにさせなかった「脱退パワハラ訴訟勝利」を全組合員で確認しよう。

3月のダイヤ改正における武蔵野線乗務員基地再編では、さいたま車掌区から武蔵野運輸区へ3名が異動になり、内2名が分会長・事務長という異常な人事異動が行われた事態は分会破壊であり、地本として緊急申し入れを行ったが対立却下となった。今後、浦和統括センター・船橋統括センター発足に伴い、さいたま車掌区から組合員の異動が予想されることからも本人希望を尊重する人事運用を会社に強く求めていく。

2024年度賃金のベースアップの取り組みは、会社が「新賃金と夏季手当の同時検討をおこなう」ことを示し、回答水準を抑え込もうとする中でのたたかいであった。地本では西浦和Café、各分会では職場集会を開催し、組合員と賃金学習を行うなど一丸となりたたかいを積み上げてきた。結果、3月8日に16,973円(5.01%)の賃金引上げと夏季手当2.7ヶ月の回答が示された。この数字は過去最高水準ではあるが、現場で汗し好調な業績をつくり出してきた期待からすると程遠い数字である。現場では会社に対し不満と不信の言葉が溢れた。現在、融合と連携や統括センター化などによって、労働の複務化が進められている。正当な評価と還元を求め、堂々と年末手当に向けた議論を職場からつくり出していこう。

JR東日本の安全は危機に瀕する非常事態にあり、社員と乗客の命が脅かされる事態が後を絶たない。その背景には各種施策の人事運用・教育・評価などが深く関連し、現場力の低下を招いているからだ。公共交通の使命を果たさず、利用者を置き去りにし、効率化ありきの施策が矢継ぎ早に実施された結果、『みどりの窓口』の閉鎖や京葉線における快速列車の本数削減では批判の声が相次ぎ、凍結・見直しが発表される異例の事態になっている。エルダー組合員の職場環境改善では、現役世代に関わる最重要課題として申37号交渉に基き、働きがいと心の豊かさを実感できる職場環境を求め申し入れを行う。常態化する要員不足を改善することなく、現場に負担を押し付ける経営姿勢は認められない。

ワンマン運転の拡大や統括センター化などが進められる中、3月に大宮統括センター・埼京運輸区が発足した。交渉において会社は「両職場で見ることで異常時に強い職場になる」と言われていた。しかし、運用以降は些細な事象で乗務員手配が出来ずに遅れが増延するなど様々な問題が発生している。今後、ダイヤ改正検証交渉で成果と課題を明確にしていく。鉄道業として守らなければならない「安全」「専門性」「サービスレベル」など、現場軽視の施策に組合員は不安を抱えている。「新たなジョブローテーション」施策では、鉄道の専門性を無視した強制配転により心身ともに破壊され離職者も後を絶たない。労働組合弱体化を目的とした施策は「企業犯罪」でもあり、直ちに撤廃するべきだ！

職業体験事業の一環として、埼京線や京浜東北線の営業列車での乗務員室内に中学生を添乗させた事象や社会から批判された水戸の運転職場における不適切な社内報などJR東日本の倫理観が問われている。私たちは経営の進むべき道をチェックし、誰もが安心して利用できる鉄道と地域や社会から信頼されるJR東日本を取り戻そう。

結成から5年目の節目を迎える。結成以降、誰一人として組合員が離脱することなく共に運動を推し進めてきた。その地道な活動が大宮・宇都宮統括センター労働者代表選において組合数を上回る倍の票を集めたことからも言える。これまでの日光線の混雑問題や烏山線の利用実態把握・促進に向けた地域との繋がりは信頼を勝ち取り、輸送サービス労組運動への「共感」は確実に広まっている。11月には烏山線ポールdeウォークも開催される。改めて、結成の意義を確認し、日常活動を通じた組織強化・拡大の実現と地域と共に健全な経営を取り戻し、安全で働きがいを実感できる労働現場を展望する輸送サービス労組運動を"全ての仲間"と切り拓こう。

以上、宣言する。

２０２４年７月３０日
ＪＲ東日本輸送サービス労働組合
大宮地方本部
第５回定期大会